

2023年度(令和5年度) 長野県工科短期大学校 事業計画・評価表

分野	事業計画				評 価			外部評価					委員コメント
	大項目	小項目	担当	取組内容	自己評価	評価の根拠	関連資料	委員 A	委員 B	委員 C	委員 D	委員 E	
教育	社会に期待される人材教育	・ITリテラシ教育の充実 ・専門知識と実践力の習得	企画総務委員会、教員	・カリキュラムに導入した「データサイエンス・AI概論」講義を実際に実施する。 ・実験・実習に重点を置いた授業。 ・地域企業との連携および実践力養成のため、卒業研究発表会の公開。	a	・データサイエンス・AI概論を全学科で実施した。 ・DX人材育成講座を全学生対象に3回実施した。 ・全学科で卒業研究発表会を関係企業へ公開（インターネットも含む）した。	別紙1 別紙2	a	a	a	a	a	・時代が要請する講義「データサイエンス・AI概論」を導入した。 ・自己評価通りで、異論ありません。 ・全学科で更に進めてください
	授業理解の増進	・大学導入教育 ・専門知識の習得	企画総務委員会、教員	・1年前期における導入教育。 ・大学数学基礎の修得機会の提供	b	・4月に導入教育として、「アカデミック・スキルズ」を実施した。 ・全学科で1年前期に、高校数学の演習科目を実施した。 ・全学科において、大学数学基礎として、微積分学、線形代数学を実施した。	別紙1 別紙2	b	b	a	b	b	・時代が要請する講義「データサイエンス・AI概論」を導入した。 ・自己評価通りで、異論ありません。
	学校生活の充実	・学生の学びの支援（新規）	学生委員会	・後援会による活動・財政支援（学生自治会活動等に対して） ・競技大会参加時の旅費等の助成	a	・学生が科学イベントに参加する際の日当の規定を新たに設けた。 ・学生自治会への運営補助資金を提供した。 ・各種競技大会出場時の学生の旅費の一部を補助した。	—	a	a	a	a	a	・学生の意欲を向上させるための支援を与えた。 ・自己評価通りで、異論ありません。 ・学生がイベントや各種協議会に参加することは大変意義があるので、是非継続していただきたい
	4年制大学編入学制度の確立	・編入実績をあげるための編入希望者の支援（新規）	企画総務委員会	・大学側の編入学募集要項の改訂（応募資格に職業能力開発短期大学校を明記）	b	・信州大学工学部と繊維学部とのR6編入学学生募集要項を改定して頂いた。 ・延べ3名が工学部と繊維学部の編入試験を受験したが、合格はできなかった。	—	b	b	a	b	b	・編入学の制度を整えた。3名が受験した。 ・自己評価通りで、異論ありません。 ・この制度ができたことが画期的なので、是非毎年受験生を出していただきたい。
研究	研究の推進	・研究活動の活性化 ・共同研究による地域貢献	教員	・学会発表や学術専門誌への投稿 ・地域企業等との共同研究の推進 ・信州大学工学部、繊維学部等との共同研究・プロジェクトの推進	a	・教員全員が個別テーマを掲げて研究推進し、学会発表や専門誌投稿を行っている。 ・地域企業、大学等、産総研等との共同研究を13件推進している。 ・教育研究振興会 研究助成に3件採択	概況 P14, P15, P18, P19	a	a	a	a	a	・活発な研究活動を展開した。 ・自己評価通りで、異論ありません。
	研究資金の獲得	・外部研究資金の申請	教員	・外部資金の獲得	a	・科学研究費助成事業 基盤研究Bに継続2件（情エレ1, 知能1）採択 ・科学研究費助成事業 基盤研究Cに新規1件、継続3件（情エレ3, 知能1）採択 ・科学研究費助成事業 若手研究に継続1件（情エレ1）採択 ・TAKEUCHI育英奨学会研究助成に3件（機械1, 制御2）採択	概況 P15～P17	a	a	a	a	a	・研究実績に基づいて、外部資金を活発に取得した。 ・自己評価通りで、異論ありません。
地域貢献	地域社会への貢献 産学官連携	・地域、科学イベントへの参加	広報委員会、教職員	・青少年に科学技術に親しむ環境を提供 ・青少年に科学の興味深さや面白さを伝えるイベントへの参加 ・ものづくり教室 in 工科短大の開催 ・まちなかキャンパスうえだ（まちキャン）の活用	a	・青少年のための科学の祭典、ひらめき・ときめきサイエンス、ふしぎ・なるほど・おもしろサイエンスに参加した。 ・取組内容に記載のイベント以外にも各種イベントに参加している。	—	a	a	a	a	a	・科学技術に関連するイベントに参加し、その面白さを青少年に伝えた。 ・自己評価通りで、異論ありません。
		・信州P-TECH運営の検討と充実	DX推進委員会	・5年間（高校3年間、短大2年間）のうちの2年目の教育、プロジェクト課題内容を関係者全員で検討し、実施する。	a	・全学生対象にDX推進セミナーを実施した。 ・信州P-TECHスタートアップイベントを実施した。	—	a	a	a	a	a	・信州P-TECHスタートの運営と充実を検討し、実施した。 ・自己評価通りで、異論ありません。 ・信州P-TECHで上田千曲高校と連携してもらっている。成果を期待したい。
校運営	入試の改善	・アドミッションポリシーに基づく学生募集要項（新規）	入試委員会	・推薦入試における数学出題範囲検討 ・入学までに履修すべき科目等の検討	a	・推薦入試における数学出題範囲が現在は数学Ⅰのみとなっているが、数学Ⅱまで拡大する必要性が議論となった（入学後、数学Ⅱ・Ⅲ分野でつまづく学生が増加）。 ・入学までに履修すべき科目等の学生募集要項への記載した。	—	a	a	a	a	a	・推薦入試で合格した学生の学力を考慮し、数学の出題範囲を検討した。 ・自己評価通りで、異論ありません。
	広報の活性化	・本校認知度の向上 ・高等学校訪問 ・オープンキャンパスの実施および充実	広報、入試委員会	・高等学校単位やグループでの見学の受入れ ・本校ウェブページの活用 ・教職員による高校訪問、進学説明会への参加 ・オープンキャンパス（OC）の年間で3回の実施	b	・6～7月にかけて高校訪問を実施した。全教職員により、計52校訪問した。 ・7月、8月、11月の3回オープンキャンパスを企画、開催した。	—	b	b	b	a	b	・認知度の向上を目指した広報活動に力を注いだ。 ・自己評価通りで、異論ありません。
	県内企業への就職	・県内企業就職者の追跡調査（新規）	就職委員会	・長野県の企業への人材供給が主要な任務の一つである。そこで、企業内での評価も含めて、どの程度実現しているかを算出する。	b	・調査方法について検討を行っている。	—	b	b	a	b	b	・県内企業への人材供給を目指して、検討を始めた。 ・自己評価通りで、異論ありません。
	入学試験受験者数	・入学試験出願倍率	教職員	・校の魅力向上とあらゆる広報活動をとおして、入学試験出願倍率（出願者数／定員数）1.5倍を維持、向上させる。	b	・職業高校のみでなく、普通高校の生徒に本校の魅力をどのようにアピールするか継続的に検討を行っている。	概況 P9	a	b	b	b	b	・魅力向上と広報による受験生増加を目指して活動した。 ・「概況9頁」の実績表に、出願倍率も記載するとわかりやすいです。 ・高校も協力しながら定員を満たすようにしたい。 ・時代も変わり、若者の進学に対する考えも変わってきている。種々の方々に、意見を伺ってもらい、改革にチャレンジしていただきたい。

【評価区分】 s：事業計画を大幅に上回る（特に優れる若しくは顕著な成果） a：事業計画を上回る（計画を上回って十分な実施） b：事業計画を実施（計画どおりに実施） c：事業計画はやや遅れている（計画をおおむね実施若しくは下回る実施） d：事業計画を十分に実施せず（特に劣る若しくは実施せず）

自己評価より高い評価 自己評価より低い評価